

2019年度

学習計画 (シラバス)

3年 共通選択

(普通科教養系、商業科、事務情報科)



● 科目一覧 (単位数)

● 共通選択① (2単位)

- ・文章表現
- ・小論文研究
- ・政治経済研究
- ・物理基礎
- ・英語会話
- ・子どもの発達と保育
- ・ビジネス技術
- ・ビジネス講座

● 共通選択② (2単位)

- ・国語教養
- ・政治経済研究
- ・数学活用
- ・教養英語
- ・音楽Ⅱ
- ・ファッション造形基礎
- ・レクリエーションスポーツ
- ・コンピュータ基礎
- ・簿記会計

● 共通選択①② (4単位)

- ・生物

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	文章表現	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 共通選択科目
教科書	-	副教材	大修館書店『ビジュアルカラー国語便覧』		
教科目標	日本語のルールに従い適切な文章を表現する能力を養う。				
授業内容 進め方	原稿用紙の正しい書き方から始まり、日本語のルールや表現に気をつけながら、あらゆる種類の文章を書いていきます。				
授業の留意点	授業中は書く作業が多くなります。集中して行ってください。毎時間課題が課され、その提出期限は厳守となります。期限を守られなかった課題は評価の対象とならないため提出期限には注意してください。				
学習方法 (アドバイス)	誤字・脱字や文のねじれや減点対象となります。作文は丁寧に書いて、課題は提出前に必ず誤りがないか一読してください。同音異義語や分からない漢字は辞書や国語便覧を使用して自分で調べてください。				
課題・補習	授業の終わりに作文課題を出します。				
試験について	定期試験は行いません。課題の提出状況や内容が、試験に代わって評価の対象となります。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・授業への取り組み(態度・発言等) ・課題・提出物の状況			
	②話す・聞く能力	・授業への取り組み(態度・発言等) ・発表・スピーチ等			
	③書く能力	・文字の丁寧さと正確さ ・文の構成・日本語表現の正確さ ・作文内容の適切さ			
	④読む能力	・読解力の正確さ ・要約内容の適切さ			
	⑤知識・理解	・漢字・語彙の理解度 ・作文知識の理解度(原稿用紙の使い方・引用文の書き方等)			
備考	1年間の総まとめとして、最後に「卒業文集」を作成します。				

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	小論文研究	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 共通選択①
教科書	なし	副教材	配布プリント		
教科目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
授業内容 進め方	自分で考え、書く時間をできるだけ多くしたいと思います。そのための基本的な事柄や、受験で問われる社会問題等について講義もします。また、提出した小論文に対してアドバイスもします。				
授業の留意点	基本的には、進学するために「小論文」が必要な生徒向けの内容です。課題を提示して、それにそれぞれが書くことになるので、主体的・積極的に取り組んでください。原則として書くための時間は設定しますが、時間内に書き上げられなければ、課題になります。締切に遅れないように提出してください。				
学習方法 (アドバイス)	小論文に限らず、文章を書くことに「正解」はありません。「模範解答」を暗記することにはほとんど意味がありませんし、どんなにがんばって書き上げたものでも、もっと良くできることは忘れないでください。また、文章を書くためには「ネタ」も必要です。日ごろから新聞やテレビのニュースに関心を持ち、自分の意見が持てるようになるまで考える姿勢が大切です。				
課題・補習	課題は締切を守って提出してください。				
試験について	課題の提出率や完成度、授業態度で評価します。試験は実施しません。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。			
	②話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えを深め、発展させている。			
	③書く能力	相手や目的、意図に応じた適切かつ効果的な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。			
	④読む能力	文章を的確に読み取って自分の考えを深め、発展させて、表現につなげている。			
	⑤知識・理解	言葉の特徴やきまり、役割などについての理解を深め、知識を身に付けている。			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	政治経済研究	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 共通選択科目
教科書	副教材				
教科目標	(1)現代の日本の政治及び国際政治の動向について関心を高め、政治についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。 (2)現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。 (3)政治や経済に関する基本的な理解を踏まえ、現代の政治や経済の諸課題を追究する学習を行い、望ましい解決の在り方について考察させる。				
授業内容 進め方	(1)教科書の内容を中心に基本事項を学び、一般教養として実生活に役立つ力を養成します。 (2)授業中に出来るだけ多くの時事問題を取り上げ、具体的な事象として学習します。 (3)単元の区切りの部分で小テストを行い、授業の理解度を確認しながら進めていきます。				
授業の留意点	(1)政治経済に関する基本的知識を身につけ、客観的な資料と関連させて諸課題を考察し、公正かつ客観的な見方や考え方を身につけましょう。 (2)様々な立場の考えを理解し、歴史的に過去や現代を考え、人類の課題を多面的に考える力をつけましょう。 (3)考察した過程や結果について適切に表現する能力と態度を身につけましょう。				
学習方法 (アドバイス)	基本的知識をしっかりと身につけるため、繰り返し問題演習に取り組むようにしましょう。日常の社会的問題に対する見識を深めるため、新聞やニュースに積極的に接するように心がけましょう。				
課題・補習	必要に応じて実施します。				
試験について	年間4回の試験を実施します。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	政治、経済のしくみに関心を高めているか。 意欲的に課題を追求する態度や積極的に考察しようとする態度を身につけているか。 国際社会に生きる日本人として社会を主体的に考える態度を身につけているか。 ※学習活動への参加の仕方や態度、プリント等への取り組み、ノート			
	②思考・判断・表現	諸事象から課題を見だし、多面的、多角的に考察しているか。 社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断しているか。 ※定期試験、小テスト、学習活動への参加の仕方や態度、プリント等への取り組み			
	③技能	諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に関する情報を主体的に選択し活用しているか。 学習の中で、追求し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できるか。 ※定期試験、プリント等への取り組み			
	④知識・理解	政治・経済に関する基本的な事柄を理解し、応用力を身につけることができたか。 ※定期試験			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	物理基礎	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 共通選択科目
教科書	改訂版 物理基礎(数研出版)	副教材		リードLightノート物理基礎(数研出版)	
教科目標	身近な事柄・現象を観察し、それらを記述するための基本的な概念や原理・法則を学ぶ。その上で科学的な自然観を身に着け、得た知識を日常生活に応用する能力を身につけるとともに、自然現象に対する探究心を高めることを目標とする。				
授業内容 進め方	基本的には教科書に沿って授業を行うが、内容によっては理解を深めるために発展的な内容も扱い、現象を物理的に観る能力を養う。また教科書の練習問題、副教材の問題演習を解き、基礎的な考え方、計算能力を身につけていく。				
授業の留意点	授業中に学んだ物理的な公式は、それぞれの文字が何を表すのか、またどのようにして導かれたものなのかを完全に理解しておくこと。その上で問題演習を積極的に行い、公式の理解、物理的に考える力、計算力の向上に努めること。				
学習方法 (アドバイス)	授業内容に対する自分なりの解釈を常に持ちながら授業に臨んでほしい。考えを持ち探求していくことが、自然現象を科学的に理解する力を身につける助けになる。また一度つまずくとその後の内容の理解が難しくなるので、分からない箇所が出てきた場合にはその都度質問し、復習して理解するという習慣を身につけることも大切である。				
課題・補習	適宜プリントや副教材の問題を課題として指示する。発展的な内容についてはプリントでの課題学習を行う。また、成績不振の者に対して補習を行う場合もある。				
試験について	定期試験を4回行う他、進度に応じて授業の中で確認テストを行う。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	発言の内容、課題・提出物の状況から学習活動への取り組みに対する関心・意欲・態度を評価する。また、場合に応じてレポート等の提出により理科的事象に対する関心・意欲を測ることもある。			
	②思考・判断・表現	レポートにより評価する。ただしこのレポートには仮想実験に関するレポートも含まれる。また、場合に応じてレポート等の提出により理科的事象に対する思考力・判断力・表現力を測ることもある。			
	③技能	レポートにより評価する。ただしこのレポートには仮想実験に関するレポートも含まれる。また、定期試験や確認テスト内でも実験技能に関する出題をし、評価材料とすることもある。			
	④知識・理解	試験・確認テスト・発言の内容により評価する。また、場合に応じてレポート等の提出により理科的事象に対する知識・理解を測ることもある。			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	英語会話	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 共通選択科目
教科書	ATLANTIS English Conversation (チアーズ)	副教材			
教科目標	1. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 英語を通じて、身近な話題について会話することができる。 3. 英語を通じて、異文化を理解し受容する態度を持つことができる。				
授業内容 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・SpeakingとListening中心の授業で、All Englishで行う。 ・ペアワークやグループワーク形式で主に日常会話主体の授業を行う。 ・パフォーマンステストを実施する。(ロールプレイ、プレゼン、インタビュースピーキングテストなど) ・異なる文化を持つ人々と共に生きていく資質や能力を身につける上で尊重すべき点やマナーなどを学習する。 				
授業の留意点	定期試験(前期末・学年末) パフォーマンステスト(授業内で実施)				
学習方法 (アドバイス)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の言語活動に積極的に参加すること。 ・音読練習をすること。 				
課題・補習	家庭学習として音読練習や発音トレーニングを課す。				
試験について	定期試験を年2回実施する。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。 ・学習活動への参加、言語活動の取り組み態度、提出物			
	②思考・判断・表現	日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。 ・定期試験、パフォーマンステスト			
	③技能	日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解する。 ・定期試験、パフォーマンステスト			
	④知識・理解	日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付ける。 ・定期試験、小テスト			
備考	パフォーマンステストは昼休み、放課後に行う可能性もある。				

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	子どもの発達と保育	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 共通選択科目
教科書	実教出版 子どもの発達と保育	副教材			
教科目標	乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得し、乳幼児にかかわる意欲や能力、実践的な態度を身に付ける。				
授業内容 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達の特徴や発達過程、保育に関する知識と技術を学びます。 ・ワークシートを利用し、調査・研究・観察や実習を多く取り入れ学習します。 ・子どもの発達や子育てにかかわろうとする意欲、能力を育てるように学習を進めます。 ・グループワークなど多様な学習形態を取り入れ、生活や学習の中から見つけた課題の解決方法を考え、実践していきます。 				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や実験などは、自分自身の目標を持ち、意欲的に取り組みましょう。 ・自らの経験や体験、他の人の意見を大切にし、自分の考えを持つよう心がけましょう。 ・ワークシートに授業の中で大切だと思うことや自らの考えを書き込むなどし、自分なりに工夫や整理をしましょう。 ・ワークシート、レポート、作品等の提出物は期日を守って必ず提出しましょう。 				
学習方法 (アドバイス)	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞を読む習慣をつけ、子どもを取り巻く環境にも目を向けるようにして下さい。 ・自らの経験や体験、他の人の意見を大切にし、自分の考えを持つよう心がけましょう。 ・子育て支援関連施設におけるボランティア活動などに積極的に参加するなど、子どもと触れ合う機会を持ち、子育て支援の視点を持つよう心がけましょう。 				
課題・補習					
試験について	定期試験は、前期中間、前期期末、後期中間、学年末(計4回)の実施予定です。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	子どもの発達の特徴や発達過程、保育などに関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか。 ※授業態度・ワークシートなど			
	②思考・判断・表現	子どもを取り巻く社会変化の現状について理解し、考えることができるか。また、自分の考えなどを表現する力が身についたか。 ※定期試験・ワークシート・発表・レポートなど			
	③技能	子どもの生活や行動などを観察し、適切にかかわることができるか。子どもの発達にかかわる基礎的技術が身についたか。 ※ワークシート・実習、実験・レポートなど			
	④知識・理解	子どもの発達の特徴を理解し、子どもの生活と保育などに関する知識が身についたか。 ※定期試験・ワークシートなど			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	ビジネス技術	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 共通選択科目
教科書		副教材			
教科目標	情報処理機器の活用能力を習得させるとともに、ビジネスに関する情報を適切に利用する能力を育てる。				
授業内容 進め方	授業の内容は、「文書入力の基礎」を中心に展開する。後半は「表計算ソフト」の学習を行う。授業では問題集の内容を中心に、パソコンを利用した実習形式で行う。				
授業の留意点	授業では問題集の内容を中心に、パソコンを利用した実習形式で行う。				
学習方法 (アドバイス)	ビジネス文書検定に向けた学習も行いますので、自ら目標を持って取り組んでください。				
課題・補習	課題は、検定前に筆記試験対策として実施する。 補習は、授業の進度に合わせて適宜放課後実施する。				
試験について	実施しない(授業内で試験の代替内容のものを実施する)				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	情報処理機器の活用に関心を高めているか。 意欲的に知識・技術の習得を目指し取り組んでいるか。 ・ワープロソフト・表計算ソフトを利用した実習授業への参加の仕方 や態度、その成果			
	②思考・判断・表現	情報処理機器の活用に関する諸問題に対し、解決を目指し的確に判断、 対処できているか。情報処理機器の基本的な知識・技術を活用し、創意工 夫する能力を身につけているか。 ・情報処理機器に関する、基礎的演習問題 ・表計算における関数問題			
	③技能	情報処理機器の活用に関する基礎的・基本的な技術と望ましい心 構えを身につけているか。 ・ワープロソフトを利用したビジネス文書の作成。・表計算ソフトによ るビジネスデータの演算・集計・作表。			
	④知識・理解	情報処理機器の活用に関する知識を身につけ、ビジネスにおける 情報の意義や役割を理解しているか。 ・実技テスト ・検定			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	ビジネス講座	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 共通選択科目
教科書		副教材			
教科目標	ビジネスの諸活動を円滑に行う能力と態度を育成する。 ビジネスにおけるコミュニケーションの意義や業務の合理化の重要性について理解させる。				
授業内容 進め方	講義形式 実践的演習 ビジスマナー、コミュニケーションの技法などの実習を通して学習を進める。 授業内容として就職活動に対応した学習。				
授業の留意点	今すぐにでも就職試験に行ける身だしなみで授業を受けさせる。また、指示されたことを自ら理解し行動に移すことを基本とする。授業の中では、ビジネス語、敬語を利用し、目上の人に対しての言葉遣いにも注意させる。				
学習方法 (アドバイス)	毎時間、指示されたことを見逃さず、1つ1つ業務をこなすこと。遅れを取っていると感じた際には、授業外で作業するなど努力することが必要。また、話を1回で聞くこと、メモを取ることが大切になる。				
課題・補習	課題は適宜実施。提出についてはその都度決定する。				
試験について	定期試験は実施しない。しかし、課題の提出、小テスト、実技テスト、授業への取り組みを評価とする。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・身だしなみ ・学習活動への積極的な取り組み ・課題・提出物の状況(内容・期日)			
	②思考・判断・表現	・自ら考え自ら行動した学習活動への取り組み ・課題・提出物の状況(工夫・完成度)			
	③技能	・学習活動への取り組み ・課題・提出物の状況(工夫・完成度) ・授業内での実技テスト			
	④知識・理解	・学習活動への取り組み ・課題・提出物の状況 ・授業内でのテスト			
備考	以上の4観点について、それぞれの評価の方法を3段階で評価します。				

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	国語教養	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 共通選択科目
教科書		副教材		ビジュアルカラー国語便覧 (大修館書店)	
教科目標	社会生活に必要な語彙力・漢字の読み書きなどの総合的な国語力の養成。				
授業内容 進め方	演習問題に取り組みます。さらに、演習問題の補充をして更に詳しい内容を扱います。漢字検定が近くなったら、検定に向けた演習問題が中心となります。				
授業の留意点	授業においては、問題演習や調べ学習が中心になりますので、積極的に取り組んでください。				
学習方法 (アドバイス)	演習問題を繰り返し復習すること。				
課題・補習	プリント等の課題を考えています。成績不振の者に対して補習を行う場合もあります。				
試験について	定期試験4回行いますが、授業中の取り組みも評価します。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・学習活動への取り組み、課題・提出物の状況			
	②話す・聞く能力	・学習活動への取り組み、課題・提出物の状況			
	③書く能力	・学習活動への取り組み、課題・提出物の状況			
	④読む能力	・学習活動への取り組み、定期試験			
	⑤知識・理解	・定期試験			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	政治経済研究	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 共通選択科目
教科書		副教材			
教科目標	(1)現代の日本の政治及び国際政治の動向について関心を高め、政治についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。 (2)現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。 (3)政治や経済に関する基本的な理解を踏まえ、現代の政治や経済の諸課題を追究する学習を行い、望ましい解決の在り方について考察させる。				
授業内容 進め方	(1)教科書の内容を中心に基本事項を学び、一般教養として実生活に役立つ力を養成します。 (2)授業中に出来るだけ多くの時事問題を取り上げ、具体的な事象として学習します。 (3)単元の区切れの部分で小テストを行い、授業の理解度を確認しながら進めていきます。				
授業の留意点	(1)政治経済に関する基本的知識を身につけ、客観的な資料と関連させて諸課題を考察し、公正かつ客観的な見方や考え方を身につけましょう。 (2)様々な立場の考えを理解し、歴史的に過去や現代を考え、人類の課題を多面的に考える力をつけましょう。 (3)考察した過程や結果について適切に表現する能力と態度を身に付けましょう。				
学習方法 (アドバイス)	基本的知識をしっかりと身につけるため、繰り返し問題演習に取り組むようにしましょう。日常の社会的問題に対する見識を深めるため、新聞やニュースに積極的に接するように心がけましょう。				
課題・補習	必要に応じて実施します。				
試験について	年間4回の試験を実施します。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	政治、経済のしくみに関心を高めているか。 意欲的に課題を追求する態度や積極的に考察しようとする態度を身につけているか。 国際社会に生きる日本人として社会を主体的に考える態度を身につけているか。 ※学習活動への参加の仕方や態度、プリント等への取り組み、ノート			
	②思考・判断・表現	諸事象から課題を見だし、多面的、多角的に考察しているか。 社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断しているか。 ※定期試験、小テスト、学習活動への参加の仕方や態度、プリント等への取り組み			
	③技能	諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に関する情報を主体的に選択し活用しているか。 学習の中で、追求し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できるか。 ※定期試験、プリント等への取り組み			
	④知識・理解	政治・経済に関する基本的な事柄を理解し、応用力を身につけることができたか。 ※定期試験			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	数学活用	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 共通選択科目
教科書	「数学活用」(実教出版)	副教材	なし		
教科目標	1. 身の回りのいろいろなところで数学が関係していることを理解する。 2. 経済や測定など、社会生活を営むうえで数学が使われていることを理解する。 3. 数学と人間がどのように関わって発展してきたかを理解する。				
授業内容 進め方	講義形式およびグループワークを中心に展開する。発表の機会をなるべく多く設ける。				
授業の留意点	教科書・ノートを持ってきて下さい。				
学習方法 (アドバイス)	数学を身近に感じ、自らが進んで問題を見出し、その問題の解決に積極的に取り組んで下さい。				
課題・補習	授業時に出された課題を、締切を守って提出して下さい。				
試験について	試験は実施せず、課題の提出率、完成度、授業参加態度で評価します。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	数理的な諸概念に興味・関心をもち、それらを意欲的に探究するとともに、数学を活用しようとする。			
	②数学的な見方や考え方	いろいろな事象について、数学的にとらえて論理的に考察したり、表現できる。			
	③数学的な技能	事象を数量や図形を用いて適切に処理できる。			
	④知識・理解	基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けられる。			
備考					

共通選択 簡易シラバス

教科名	教養英語	共通 選択	②	上限人数	40名 (受験級により習熟度クラスを予定)
教科目標	1. 英検の学習を通じて、高校卒業程度の語彙・文法・リスニング力等を習得する。 2. 英検の学習を通じて、様々な学校・企業への受験英語に対応できる知識を習得する。				
授業内容 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義形式である。 ・問題演習を行い、その後解説を聞き理解を深めていく。 ・課題を家庭学習として取り組み、その課題をもとに授業をすすめる。 ・2次面接対策として音読、自己表現活動を行う。 				
希望対象生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学 ・専門学校進学 ・就職 				
評価の方法	1. 年4回の定期試験での評価を行う。試験はリスニングも多く含まれる。 2. 小テスト、提出物、英検・商業英検の取得を評価に加算する。 3. インタビューテストを実施する。(英検2次試験対策)				
備考	受験対応する検定 英検・商業英検				

平成 31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	音楽Ⅱ	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 共通選択科目
教科書	音楽Ⅱ Tutti (教育出版)	副教材			
教科目標	① 音楽の幅広い活動を通して感性を高め、音楽を通して様々な文化についての理解を深めながら、音楽を愛好する心情を養うことができる。 ② 曲想を理解し、個性豊かに表現することができる。 ③ 様々な音楽活動を通して、楽曲の国や地域の特徴や歴史的・文化的背景を理解することができる。 ④ 音楽の組み立て方を理解し、創作することができる。				
授業内容 進め方	音楽Ⅰで学習したことを踏まえ、「歌唱」「器楽」「鑑賞」「創作」の4つの分野について、さらに踏み込んだ内容を学習していきます。 「歌唱」では独唱から重唱まで、日本語や外国語の歌唱を行います。 「器楽」ではギターやピアノ、リコーダー・アンサンブル、箏等を行います。いずれも音楽Ⅰで演奏した曲より難しくなる上、より高度な表現を目指していきます。 「鑑賞」ではCDやDVD・ブルーレイディスクを使用し、音楽の種類や形式、音楽史や作曲家及び楽曲について学習します。 「創作」は、歌に伴奏をつける編曲等を行いません。				
授業の留意点	実技科目である音楽では、何よりも普段の授業での取り組みが重視されます。 できるだけ多くの作品に触れ、技能を高め、表現を深めてほしいと考えています。 積極的に歌い、演奏して下さい。また、鑑賞や創作においては、自分の感性を磨く機会ととらえ、授業の中で学んだ知識を踏まえて、音楽を自分なりに感受し、表現しましょう。				
学習方法 (アドバイス)	実技テストを多く実施しますが、授業の中の練習で十分達成できる課題を設定しています。 授業の時間を十分活用しましょう。このほかに定期試験を実施しますので、授業で配られるプリントや教科書を用いて復習してください。				
課題・補習	課題は特にありませんが、歌唱・器楽の実技テストを行いますので、必要に応じて練習しておいて下さい。また、欠席やケガなどの理由でテストを受けられない場合は、後日追試を行いません。				
試験について	実技テストと定期試験(前期中間、前期期末、後期中間)				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	音楽に関心を持ち、意欲的に授業に参加しているか。(授業態度)			
	②感受や表現の工夫	自分なりの感じ方を持ち、表現を工夫することができるか。(授業態度)			
	③表現の技能	演奏・創作の基本的な能力が身についているか。(実技テスト、定期試験、作品)			
④知識と鑑賞の能力	音楽を理解し、その良さや美しさ・奥深さを味わっているか。(授業態度、プリント)				
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	ファッション造形基礎	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 共通選択科目
教科書	実教出版 ファッション造形基礎	副教材			
教科目標	被服の構成、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を習得し、ファッション造形の基礎的な能力と態度を育てる。				
授業内容 進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の構成、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を学びます。 ・被服実習を通して、被服製作の技術を身につけます。また、ものづくりの楽しさを学びます。 				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や実験は、目標を持って意欲的に取り組みましょう。 ・ワークシートには、授業の中で大切だと思うことや自らの考えを書き込むなどし、自分なりに工夫や整理をすることが大切です。 ・プリント、レポート、作品等の提出物は期日を守って必ず提出しましょう。 				
学習方法 (アドバイス)	<ul style="list-style-type: none"> ・和服や洋服など、衣服について興味をもつようにしましょう。 ・被服製作に必要な道具は使えるようにしましょう。 ・基礎的な技術を身につけるので、ていねいな作業と、完成させる強い意志と意欲を持って取り組みましょう。 				
課題・補習					
試験について	定期試験は、前期期末、学年末(計2回)の実施予定です。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	衣服の構成・材料・製作について関心を持ち、衣生活の充実・向上を目指して意欲的に取り組むことができるか。 ※授業・実習への参加の仕方・態度、プリント・ワークシートへの取り組み			
	②思考・判断・表現	衣服の製作について、自分の考えをまとめ、目的に応じて適切な材料やデザインを判断する力を身につけることができるか。 衣服のデザインや材料の選択に関し、また、制作過程において、個人の創意・工夫を表現することができるか。 ※被服製作の作品、定期試験、プリント・ワークシートの考察			
	③技能	制作題材を踏まえた技法を用い、計画に従って能率的に衣服の製作を行うことができるか。 ※被服製作の技術・評価、作品・レポートなどの提出			
	④知識・理解	制作題材を踏まえた技法を用い、計画に従って能率的に衣服の製作を行うことができるか。 ※被服製作の技術・評価、作品・レポートなどの提出			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	レクリエーションスポーツ	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 共通選択科目
教科書	「ステップアップ高校スポーツ」 「現代高等保健体育」 大修館書店	副教材		指定ジャージ、指定靴、指定Tシャツ	
教科目標	1 健康・体力の保持・増進だけではなく、友人との交流・ふれ合いなどを通して、年齢や体力、目的などに応じた多種多様な活動をする。 2 生涯にわたって運動の計画・運営ができる資質や能力を身につける。				
授業内容 進め方	各種スポーツのルールや戦術について、班毎に調査するとともに、競技力の向上に必要な体力や技術を身につけるための練習計画を立てる。その計画に基づき、運動を実践していく。前期末、学年末には競技会を行い、その企画運営も生徒自身で行う。				
授業の留意点	① 指定ジャージの管理 ② 時間を守る ③ 安全性への配慮 ④ 指示を聞く姿勢と態度 ⑤ 用具の準備・片付けと協力 ⑥ 他の生徒との協調 ⑦ 体調が悪くなったり、怪我をした場合はすぐに教科担任に申し出ること				
学習方法 (アドバイス)	友人との交流が大きな目的となるので、仲間と協力して競技力を向上させるとともに、深く交流を図る。また、活動計画書や学習ノートも評価に大きく関わるので、授業内での運動の実践だけではなく、レポート作成にも力を注ぐ。				
課題・補習	状況に応じて実施。				
試験について	種目毎に適宜実施。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	・準備・片付け・体操を積極的に行っているか ・活動に積極的に取り組んでいるか ・提出物の内容と提出期限を守られているか ・他の生徒と協力し合って活動しているか			
	②思考・判断・表現	・活動計画書の内容に工夫がみられるか ・自己や仲間の技術を高められるよう工夫しているか			
	③技能	・種目毎の実技試験 ・競技会で高いレベルの技術を発揮できているか			
④知識・理解	・活動計画書の内容でルール・戦術について深く理解しているか ・筆記テスト				
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	コンピュータ基礎	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 共通選択科目
教科書	副教材				
教科目標	<p>情報に関わる技術を適切かつ効果的に活用できるようにするために、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段やアプリケーションソフトウェアに関わる基礎的な知識と技術を確実に身に付けると共に、情報手段などを活用した実習などの体験的な活動を通して実際に活用する能力と態度を身に付ける。</p>				
授業内容 進め方	<p>講義形式。 コンピュータの基礎理論・知識を3つの大きな分野に分けて学習を進める。 IPAによる国家資格試験『ITパスポート試験』の出題範囲に準拠する内容を取扱う事で資格試験を受験できる力を身に付けていく。</p>				
授業の留意点	<p>単位数が2単位と少ないので、積極的に情報を収集・活用し学習を進める事。</p>				
学習方法 (アドバイス)	<p>知識の暗記ではなく、理論的に理解することが重要な学習内容です。 興味の有る無しではなく、これから社会で必要とされる知識を身に付ける事が目標です。</p>				
課題・補習	<p>国家資格受験に向けた課題・講習は状況に応じて実施する。</p>				
試験について	<p>前期末・学年末の年2回</p>				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	<p>・授業の取り組み……◎ ・積極的な情報の活用……○</p>			
	②思考・判断・表現	<p>・授業の取り組み……○ ・定期試験……◎</p>			
	③技能	<p>・授業の取り組み……○ ・問題演習……◎ ・定期試験……○</p>			
	④知識・理解	<p>・定期試験……◎ ・国家資格試験演習問題……○</p>			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	簿記会計	単位数	2 単位	学年・学科	3 年 共通選択科目
教科書		副教材			
教科目標	企業において日常発生する取引について、正確に記帳・整理する知識と技能を習得する。また、商業簿記の基本的な仕組みについて理解を深め、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を身に付ける。				
授業内容 進め方	配布プリントを中心として学習していく。検定試験受験を視野に入れ、定期的な確認テストなどを授業の中に組み入れながら、進めていく。				
授業の留意点	<p>企業において日常発生する取引を合理的・能率的に記帳する知識と技術を習得するとともに、取引の仕訳から勘定の記入を経て決算に至るまでの簿記の基本的な仕組みについて記帳練習を通して理解を深めることが大切である。</p> <p>また、作成した帳簿、伝票、仕訳帳や貸借対照表、損益計算書を通して、ビジネスの諸活動を理解する能力も身につくよう、自ら考える力も必要となる。</p>				
学習方法 (アドバイス)	わからないところはそのままにせず、その時間で解決できるようにすること。あきらめることなく最後までやり抜くことが大切である。 週2回の授業なので家庭学習による知識・技能の定着を心掛けること。				
課題・補習	授業の理解を深めるため、また進度によって課題が課されることがある。補習は、検定や試験前に理解するのに時間がかかる生徒を対象に行う。また、成績不振者に対して長期休業中や放課後などに補習を行う場合もある。				
試験について	定期試験年4回実施				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	授業への参加態度が良好か。 演習問題にきちんと取り組んでいるか。 ノート整理と配布プリントの整理ができているか。			
	②思考・判断・表現	会計処理を正しく理解し、正確な帳簿の作成ができているか。 自分から進んで取り組んでいるか。			
	③技能	会計法規に基づいて、正しい会計処理を習得したか。			
	④知識・理解	授業の内容をより深く理解しようとしているか。 知識を習得し、理解しているか。 (定期試験 4回、小テスト等の成績により理解度を確認します。)			
備考					

平成31年度 北海道中標津高等学校シラバス

教科名	生物	単位数	4 単位	学年・学科	3 年 共通選択科目
教科書	「改訂版 生物」(数研出版)	副教材	「フォトサイエンス生物図録」(数研出版) 「改訂版生物準拠ノート1巻・2巻」(数研出版)		
教科目標	生物基礎で学習した内容を基礎として、日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高める。また、観察、実験などを通して、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
授業内容 進め方	教科書で重要項目を確認し、観察、実験、資料の活用、意見交換などによりイメージを広げ理解を深める。				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業が始まるまでに、教科書、ノート、資料集を用意する。 ・板書は自分なりに分かりやすく工夫してノートにまとめ、復習に活用すること。 ・ノートや課題などの提出物は必ず期日を守り提出すること。 ・発問に対して積極的に考え、発表するように心がける。不明な点は時間内に解決すること。 				
学習方法 (アドバイス)	用語を丸暗記するのではなく、なぜそうなるのかを常に考える。また、実際に目で見ることができないものは資料集などでイメージを広げ理解を深める。				
課題・補習	必要に応じて行う。				
試験について	定期試験は年間4回行う。期間内に授業で扱ったすべてを試験範囲とする。小テストは随時行う。				
評価の 観点・方法	評価の観点	評価方法			
	①関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加態度 ・ノート、課題等の内容と提出状況 			
	②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・発言の内容 ・課題(実験レポートなど)の内容 ・定期試験の解答内容 			
	③技能	<ul style="list-style-type: none"> ・実験、観察への取り組み ・課題(実験レポートなど)の内容 ・定期試験の解答内容 			
	④知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験、小テストの解答内容 ・課題の内容 ・発言の内容 			
備考					